

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

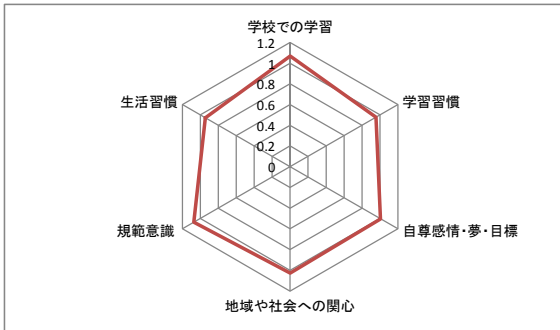
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全ての領域において全国の平均正答率を上回っていた。特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について高い正答率が見られた。 ・この調子で学習に取り組み、習慣化していく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文を正しく読み取り、正確に漢字を書く問題、文中における主述との関係などに注意して書く問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	目的に応じて必要な情報を捉えることについて、やや正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全ての領域において全国の平均正答率を上回っていた。特に「読むこと」の正答率が高い。 ・選択式に比べ、記述式の問題においてやや低い傾向が見られたので、自分の考えをまとめるなど、書く活動を大切にする必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えるの正答率が、全国の平均正答率と比べ非常に高かった。無解答率も0%だった。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題は、正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的によくできていたが、「量と測定」に比べ、「数と計算」の領域について低い傾向が見られた。復習等繰り返し行い、習熟化する必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	角の大きさを求める問題、単位量や百分率を求める問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	1に当たる大きさを求め、数量関係を理解し、数直線上に表す問題は、正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・どの領域においても、全国の平均正答率を大きく上回っている。無解答率も低い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	角の大きさを求める問題、問題を正しく読み取り、その規則性を解釈し、答える問題等についての正答率が高い。	
	努力が必要な問題	2つのグラフ(棒グラフ、帯グラフ)から読み取れることを適切に判断する問題はやや正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全ての区分において、全国の平均正答率を上回っていた。 ・選択式、記述式ともによくできていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	人体や流れる水のはたらき等、科学的な言葉や概念を理解し、正答率も高い。	
	努力が必要な問題	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用する問題において正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
全体的に全国比と同じような結果になっている。 学校での学習及び、規範意識において高い結果が見られた。特に、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と考えている児童が多く、本校全体で取り組んでいる「話し合い」や「交流活動」(主体的・対話的で深い学び)の成果が出ていると考える。今後も学校全体で推進していきたい。 生活習慣、学習習慣の項目(家庭学習の時間や朝食を食べる習慣)では、低い傾向が見られた。児童だけでなく、家庭との連携を大切にし、くり返し呼びかける等して啓発していきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・全学年、全学級で「めあてとまとめとふりかえり」を行い「学ボード」というツールも活用し、話し合う学習を進め、主体的・対話的でより深い学びをするように取り組んでいる。 ・効果的な基礎学力の向上を図るため、授業時間とは別に、中尾タイムという学力補充のための時間を設けている。(全員参加) 5、6年生は、火・木を中尾タイムロング(40分)とし、ひまわり学習塾の指導員や低学年の学級担任も参加して、5、6年の学級担任と共にきめ細かな指導ができるような体制作りをしている。 ・必要に応じて(空き時間の活用等も活用して)取り出し指導を行い、少人数にて基礎的な内容の定着を行っている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭で宿題をする割合、家庭学習をしている時間がやや少ない。家庭学習の時間を学年×10分+10分以上を推進していく。朝食をとることの大切さや、基本的な生活習慣については、学級指導だけでなく、家庭にも、「保健だより」等を中心に呼びかけていく。中学校区でも、「あいさつ運動」をはじめ、共同で取り組みを行っている。委員会であいさつカード等の取組も行っている。規範教育の講演も継続して行い、個人情報の大切さや、ネットの怖さを繰り返し広報している。
--